

一般国道23号 中勢道路

埋蔵文化財発掘調査概報23

(平成22年度調査)

2011.7

三重県埋蔵文化財センター



相川西方遺跡（第3次）II区全景



相川西方遺跡（第3次）SK 486出土状況

例　　言

1 本書は、三重県が国土交通省中部地方整備局から委託を受けた一般国道23号中勢道路建設予定地にかかる平成22年度の埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。

2 調査にかかる費用は、国土交通省中部地方整備局の負担による。

3 調査の体制は下記のとおりである。

・調査主体 三重県教育委員会

・調査担当 三重県埋蔵文化財センター

　　調査研究Ⅱ課

課	長	田村陽一			
主	査	森田啓司	松葉和也	淺尾 太	西口剛司
主	事	星野浩行			
技	師	水橋公恵			
室 内 整 理 員		黒川敬子	太田浩子	森川絹代	
		北岡佳代子	山口香代	平井治代	

・土工作業受託機関 安西工業株式会社（相川西方遺跡第3次調査）

　　橋本技術株式会社（相川西方遺跡第1次調査）

　　朝日商会株式会社（鳥羽見城跡・上はんの木古墳第1次調査）

　　進栄建設株式会社（城ノ越遺跡・東山神遺跡第1次調査）

　　有限会社安立水道（本宮遺跡第1次調査）

4 調査に際しては、津村善博氏（三重県立博物館）に専門的なご指導とご助言を賜った。記して感謝の意を表したい。

5 本書作成にかかる整理及び報告文執筆は、主として各遺跡の現場担当による。

6 本書で用いた座標は、世界測地系による測量法の第VI座標系を基準とし、方位は座標北を示す。

7 本書では、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』22版（日本色研事業株式会社 1999年）を使用した。

8 本書に用いた遺構表示略記号は、以下の通りである。

SK：土坑

本文目次

I	前言	（西口）	1
II	相川西方遺跡（第3次）	（松葉・淺尾・西口）	7
III	鳥羽見城跡・上はんの木古墳（第1次）	（星野・水橋）	13
IV	相川西方遺跡（第1次）	（淺尾・西口）	14
V	城ノ越遺跡（第1次）	（星野・水橋）	15
VI	東山神遺跡（第1次）	（星野・水橋）	16
VII	本宮遺跡（第1次）	（星野・水橋）	17

挿図目次

第1図	中勢バイパス（12工区付近）遺跡位置図	2
第2図	中勢バイパス路線内遺跡位置図	3
第3図	相川西方遺跡（第3次）調査区位置図	7
第4図	相川西方遺跡（第3次）調査遺構平面図	8
第5図	SK390・401・409・425・486土層断面図	8
第6図	SK465土層断面図	9
第7図	相川西方遺跡（第3次）出土遺物実測図	11
第8図	鳥羽見城跡・上はんの木古墳調査区位置図	13
第9図	相川西方遺跡（第1次）調査区位置図	14
第10図	城ノ越遺跡調査区位置図	15
第11図	東山神遺跡調査区位置図	16
第12図	本宮遺跡調査区位置図	17

挿表目次

第1表	平成22年度中勢バイパス発掘調査遺跡一覧	2
第2表	中勢バイパス発掘調査成果一覧	4～6

I 前 言

1 中勢バイパスと埋蔵文化財保護

中勢バイパスは、三重県中勢地域の道路網を充実させるとともに、交通緩和とバイパス周辺の適切な土地利用を図り、地域の経済発展に寄与するために、一般国道23号のバイパスとして計画された鈴鹿市北玉垣町から松阪市小津町までの延長33.8kmの道路である。当事業地内における埋蔵文化財の保護取り扱いについての協議は昭和58年から行われているが、その詳細については各概報に記載されているので参考されたい。

2 平成22年度の現地調査

平成22年度の埋蔵文化財発掘調査業務の委託契約は、国土交通省中部地方整備局長と三重県知事との間で4月1日に締結した。契約期間は平成22年4月1日～平成23年3月31日である。

当該年度の調査工程や具体的方法については、4月6日に国土交通省三重河川国道事務所と三重県埋蔵文化財センターで協議を行った。その後、同様の協議を6月、7月、8月、12月にも行い、発掘調査業務の円滑な推進を図った。また、次年度の調査にむけて、用地取得状況や調査計画についての協議を12月に行った。

現地調査としては、平成22年4～6月に相川西方遺跡の第1次調査、平成22年7月～平成23年1月に相川西方遺跡の第3次調査、平成22年7～9月に本宮遺跡、平成22年8～10月に鳥羽見城跡・上はんの木古墳、平成22年9～12月に城ノ越遺跡・東山神遺跡の第1次調査をそれぞれ行った。

相川西方遺跡は、第1次調査対象範囲9,400m²のうち、940m²の調査を行い、その結果と昨年度の第2次調査の結果をもとに、調査の条件が整った3,000m²を、第3次調査の対象範囲とした。

鳥羽見城跡は、調査対象範囲4,400m²、調査面積410m²である。調査の結果、遺構・遺物は確認されず、本調査不要と判断した。

上はんの木古墳は、調査対象範囲1,600m²、調査面積190m²である。調査の結果、遺構・遺物は確認されず、本調査不要と判断した。

城ノ越遺跡は、調査対象範囲11,730m²、調査面積1,070m²である。今回の調査では遺構・遺物は確認されず、次年度に残りの範囲の調査を行う予定である。

東山神遺跡は、調査対象範囲11,300m²、調査面積1,030m²である。今回の調査では遺構・遺物は確認されず、次年度に残りの範囲の調査を行う予定である。

本宮遺跡は、調査対象範囲8,700m²、調査面積400m²である。調査の結果、複数の遺構と土師器等の遺物が確認され、次年度に本調査を行う予定である。

3 平成22年度の整理作業と報告書作成

過年度に現地調査を実施した池新田遺跡、木造赤坂遺跡、井手ノ上遺跡、筋違遺跡、相川西方遺跡の遺物実測・写真撮影、木製品・金属製品の保存処理、調査現場の図面・写真整理など、報告書作成に向けての資料整理を鋭意行った。

4 公開普及

発掘調査に伴う公開普及活動としては、相川西方遺跡において、津市教育委員会との協働による地元小学生対象の現地学習、一般対象の現地説明会、また刊行物として、発掘調査概報、調査ニュースを発行した。

相川西方遺跡の現地説明会は、平成22年12月18日に実施した。当日は天候にも恵まれ、約180人の参加者があり、調査区内での見学・説明、出土遺物の展示紹介などを行った。参加者からは、多くの質問がよせられ、熱心に話を聞いていただいた。

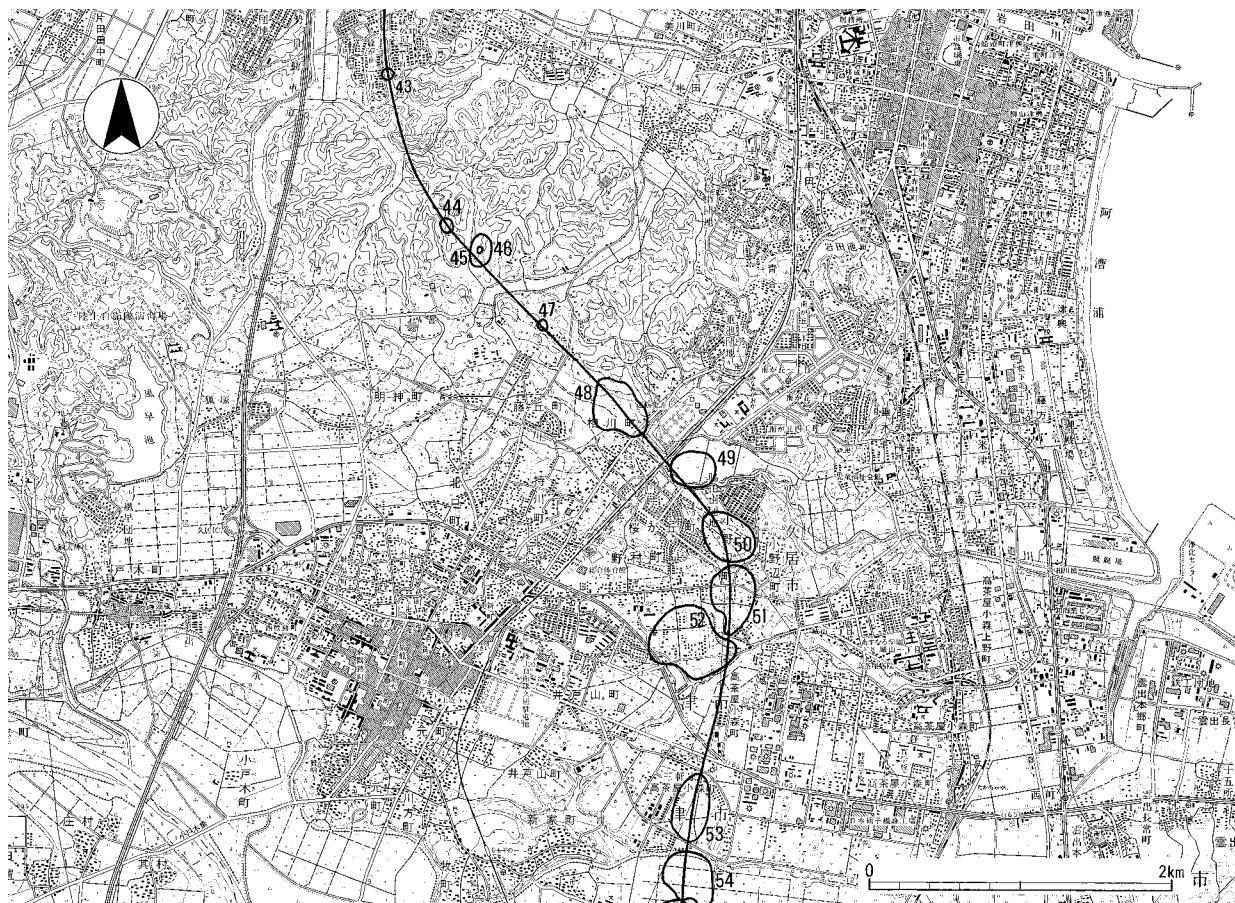
8月には、第2次調査を行った相川西方遺跡、第1次調査を行った丸地遺跡、城ノ越遺跡、本宮遺跡の調査結果を記載した『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報22』を発行した。

12月には、相川西方遺跡（第3次）の調査成果を特集した『中勢道路調査ニュース』No.54を発行した。

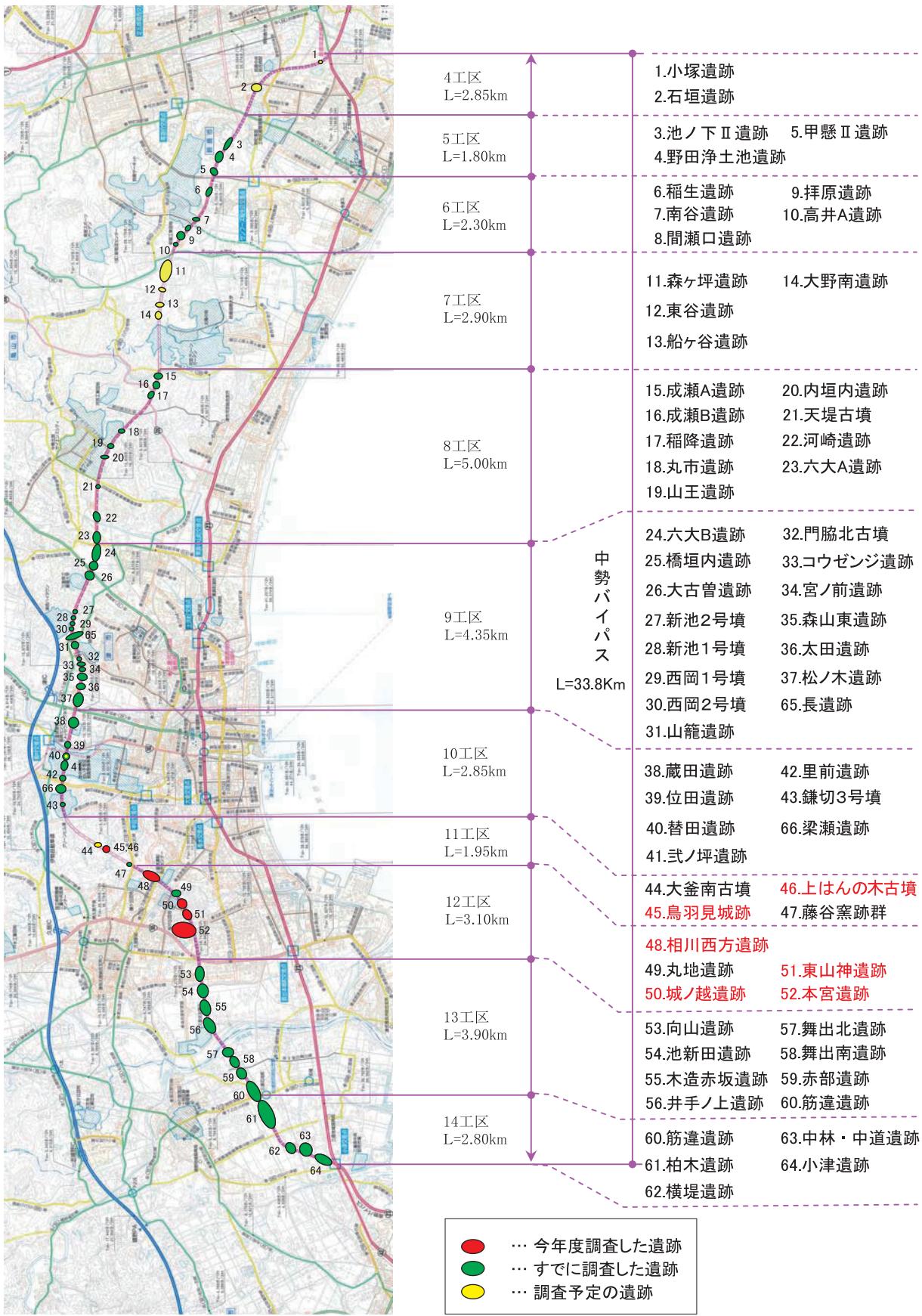
また、平成23年3月には、相川西方遺跡、鳥羽見城跡、上はんの木古墳、城ノ越遺跡、東山神遺跡、本宮遺跡の調査結果をまとめた『中勢道路調査ニュース』No.55を発行した。

	工区	番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	担当者
第3次調査	12	48	相川西方遺跡	津市久居相川町	3,000m ²	平成22年7月29日～平成23年1月31日	松葉和也 淺尾 太 西口剛司
第1次調査	11	45	鳥羽見城跡	津市神戸	410m ²	平成22年8月30日～平成22年10月13日	星野浩行 水橋公恵
		46	上はんの木古墳	津市神戸	190m ²	平成22年8月30日～平成22年10月13日	星野浩行 水橋公恵
	12	48	相川西方遺跡	津市久居相川町 津市垂水	940m ²	平成22年4月30日～平成22年6月28日	淺尾 太 西口剛司
		50	城ノ越遺跡	津市久居小野辺町	1,070m ²	平成22年9月24日～平成22年12月13日	星野浩行 水橋公恵
		51	東山神遺跡	津市久居小野辺町 津市久居野村町	1,030m ²	平成22年9月24日～平成22年12月13日	星野浩行 水橋公恵
		52	本宮遺跡	津市久居野村町	400m ²	平成22年7月29日～平成22年9月15日	星野浩行 水橋公恵
合 計					7,040m ²		

第1表 平成22年度中勢バイパス発掘調査遺跡一覧



第1図 中勢バイパス（12工区付近）遺跡位置図（1：50,000）（国土地理院1：25,000『津西部』『津東部』）



第2図 中勢バイパス路線内遺跡位置図

工区	遺跡名	所在地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	S 63	H 元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22
3	池ノ下II遺跡	鈴鹿市稻生町	17,000	1,290																							
4	旧：池ノ下遺跡		0	0																							
5	野田遺跡	鈴鹿市稻生町	12,600	970																							
工区	中懸II遺跡		0	0																							
5	旧：中懸遺跡	鈴鹿市稻生町	6,200	1,150																							
一	淨土池遺跡	鈴鹿市稻生町	—	330																							
	小計		35,800	3,750	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
6	稻生遺跡	鈴鹿市稻生町	3,300	185	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
7	南谷遺跡	鈴鹿市稻生町	4,000	2,100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
工区	8 間瀬口遺跡		0	0																							
9	押原遺跡	鈴鹿市御園町	7,000	64																							
10	高井A遺跡	鈴鹿市徳田町	4,000	96																							
	小計		25,300	617	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
8	成瀬A遺跡	津市河芸町三行	12,000	600																							
1	成瀬B遺跡	津市河芸町三行	8,700	140																							
工区	17 稲峰遺跡	津市河芸町三行	2,500	560																							
	小計		23,200	1,300	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
18	丸市遺跡	津市河芸町南黒田	1,600	128																							
19	山王遺跡	津市河芸町南黒田	3,700	128																							
8	内垣内遺跡	津市河芸町南黒田	4,200	128																							
2	天堤古墳	津市大里幡合町	900	55																							
工区	22 河崎遺跡	津市大里幡合町	10,600	256																							
23	六・七A遺跡	津市大里幡合町	17,800	448																							
	小計		38,800	1,143	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

区段	遺跡名	所在地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	S 63	H 元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22
24	六大B遺跡	津市大里館町田	26,235	26,235	444	416	176	176	176	17,525	3,420	3,350	1,270	28	670												
25	橋垣内遺跡	津市大里館町田	12,000	12,000	—	—	—	—	—	7,000	4,925	75															
26	大古曾遺跡	津市一身田	12,435	12,435	692	352	—	—	—	—	300	—	40	—													
27	新池2号墳	津市一身田	—	—	198	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
28	新池1号墳	津市河辺町	—	—	0	—	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
29	西岡1号墳	津市河辺町	2,000	2,000	—	70	—	—	—	—	—	70	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30	西岡2号墳	津市河辺町	—	—	30	—	—	—	—	—	—	—	—	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
9	山籠遺跡	津市河辺町	1,100	1,100	208	208	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
31	門脇北古墳	津市河辺町	1,100	1,100	—	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
32	コウゼンジ遺跡	津市河辺町	—	—	80	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
33	宮ノ前遺跡	津市長岡町	2,800	2,800	144	144	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
34	森山東遺跡	津市長岡町	5,230	5,230	240	240	—	—	—	—	—	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35	太田遺跡	津市長岡町	3,320	3,320	469	469	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
36	松ノ木遺跡	津市安東町	7,800	7,800	144	144	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
65	長遺跡	津市河辺町	3,700	3,700	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小計			77,720	77,720	2,915	2,249	0	300	100	68	0	0	3,700	—	198	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
38	蔵田遺跡	津市納所町	12,800	12,800	1,356	—	608	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
39	位田遺跡	津市北河原町	7,100	7,100	5,260	416	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5,500	6,810	3,300	—	—	—	—	—	—	—	—	—
40	磐田遺跡	津市南河原町	7,900	7,900	432	176	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4,600	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
10	武ノ坪遺跡	津市野田	5,700	5,700	320	320	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6,620	4,210	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
41	里前遺跡	津市野田	3,000	3,000	256	160	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5,100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42	梁瀬遺跡	津市野田	—	—	1,152	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	96	—	1,280	—	—	—	—	—	—	—	—	—
43	鎌切3号墳	津市神戸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	474	678	—	3,620	—	—	—	—	—	—	—	—
小計			36,500	43,960	3,932	0	1,680	0	0	0	0	0	0	0	0	748	826	678	0	0	0	0	0	0	0	0	0

昭和59年津市教育委員会が発掘調査

*2

工区	遺跡名	所在地	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	S 63	H 元	H 2	H 3	H 4	H 5	H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22
45	鳥羽見城跡	津市神戸	4,400	410																						410	
11	46 上はんの木古墳	津市神戸	1,600	190																						190	
47	藤谷塚群	津市半田	—	—																							
小計			6,000	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	600	
48	相川西方遺跡	津市久居相川町	18,000	1,940	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
49	丸地遺跡	津市垂水	7,100	560																						560	
12	50 城ノ越遺跡	津市久居小野邊町	16,300	1,270	0																					940	
51	東山神遺跡	津市久居小野邊町	13,300	1,070	0																					1,070	
52	本宮遺跡	津市久居野村町	11,300	1,600	0																					240	
小計			66,000	6,440	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,440	
53	向山遺跡	津市高茶屋小森町	28,000	1,780	0																					1,200	
54	池新田遺跡	津市木造町	16,300	554	0																					400	
55	木造赤坂遺跡	津市木造町	17,500	1,192	0																					1,961	
13	56 井手ノ上遺跡	津市木造町	12,500	800	0																					6,570	
14	57 舞出北遺跡	松阪市舞出町	9,600	960	0																					6,300	
小計			11,170	—																						1,192	
58	舞出南遺跡	松阪市舞出町	16,300	1,200	0																					6,570	
59	赤部遺跡	松阪市舞出町	16,800	1,190	0																					6,300	
60	筋違遺跡	松阪市舞出町	16,820	16,820	0																					3,700	
小計			37,000	3,680	0																					3,700	
61	筋違遺跡	松阪市舞出町	11,356	11,356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
62	柏木遺跡	松阪市舞出町	70,364	5,410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14	63 中林・中道遺跡	松阪市中道町	31,000	1,010	0																					1,470	
15	64 小津遺跡	松阪市中道町	21,500	1,140	0																					1,140	
小計			18,600	8,470	0																					5,410	
63	65 姫野川北遺跡	松阪市中道町	11,220	1,424	0																					1,470	
64	66 東浦遺跡	松阪市中道町	20,700	7,350	0																					5,410	
小計			22,450	8,450	0																					5,410	
合計			551,420	37,267	2,249	1,680	300	461	324	1,047	96	748	1,024	678	2,010	0	8,560	0	84	3,900	4,586	1,380	1,400	0	0	4,040	
昭和50年津市教育委員会が発掘調査			410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,472
アミカケについて:※1:鈴鹿市(嬉野町)教育委員会実施			410	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,472
アミカケについて:※2:津市教育委員会実施			400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,472
アミカケについて:※3:松阪市(嬉野町)教育委員会実施			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

第2表 中勢ハイパス発掘調査成果一覧

上段: 第1次調査面積、下段: 本調査面積

アミカケについて:※1: 鈴鹿市(嬉野町)教育委員会実施

アミカケについて:※2: 津市教育委員会実施

アミカケについて:※3: 松阪市(嬉野町)教育委員会実施

II 相川西方遺跡（第3次）

1はじめに

相川西方遺跡は、三重県運転免許センターの西方、津市久居相川町地内に所在する。立地は、伊勢湾へ東流する二級河川相川が形成した谷底平野のうち、左岸の自然堤防の後背低地を中心とし、一部が段丘に及ぶ（第3図）。

本遺跡の西600mには三重県内で最も古い5世紀後半の須恵器窯跡である久居古窯跡群（註1）が、北西800mには5世紀末の須恵器と埴輪の併焼窯である藤谷窯跡群（註2）が存在し、一帯は古墳時代中期後半から後期にかけての窯業地の觀がある。

本遺跡では、平成21年度に第2次調査が行われ250基に及ぶ土坑が確認された。これらの多くは粘土採掘坑と考えられ、所属時期は弥生時代後期後半を中心とする時期が主体となる（註3）。

平成22年度は、第2次調査区に隣接する2箇所の調査区の合計3,000m²を対象に第3次調査を行った。

2 調査の概要

【基本層序】

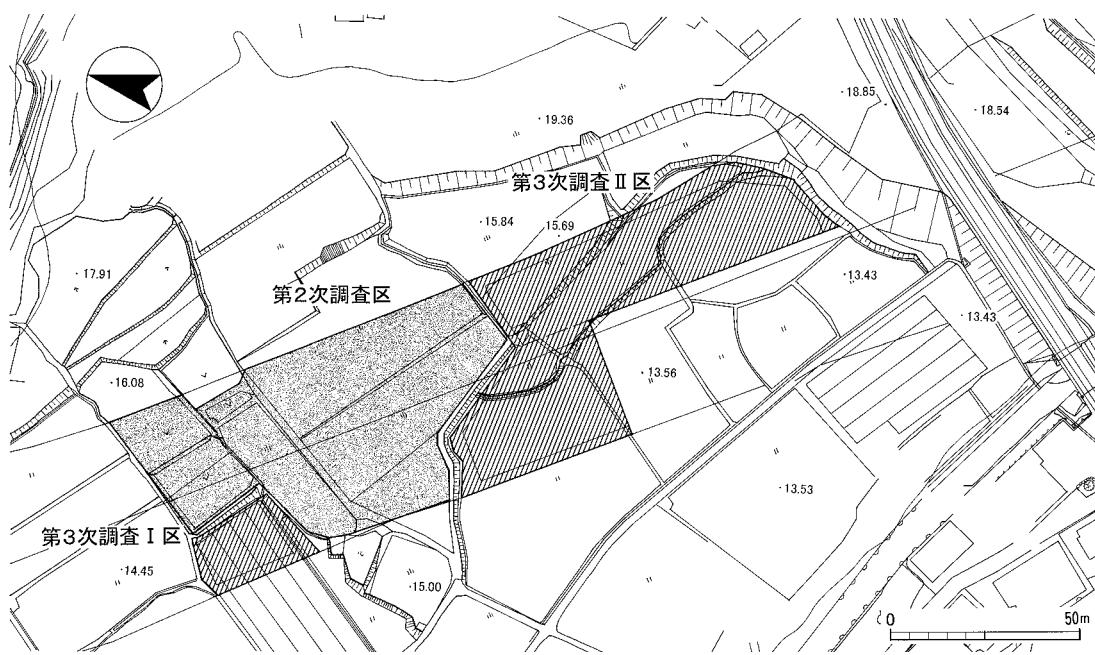
調査前の現況地盤高は、第2次調査区が14.7～16.1m、第3次調査区が13.5～14.4mと、相川の現河道に近づくほど低くなっているが、基本的な層序は第2次調査のものを概ね適用することができる。

層序の概略は次の通り。

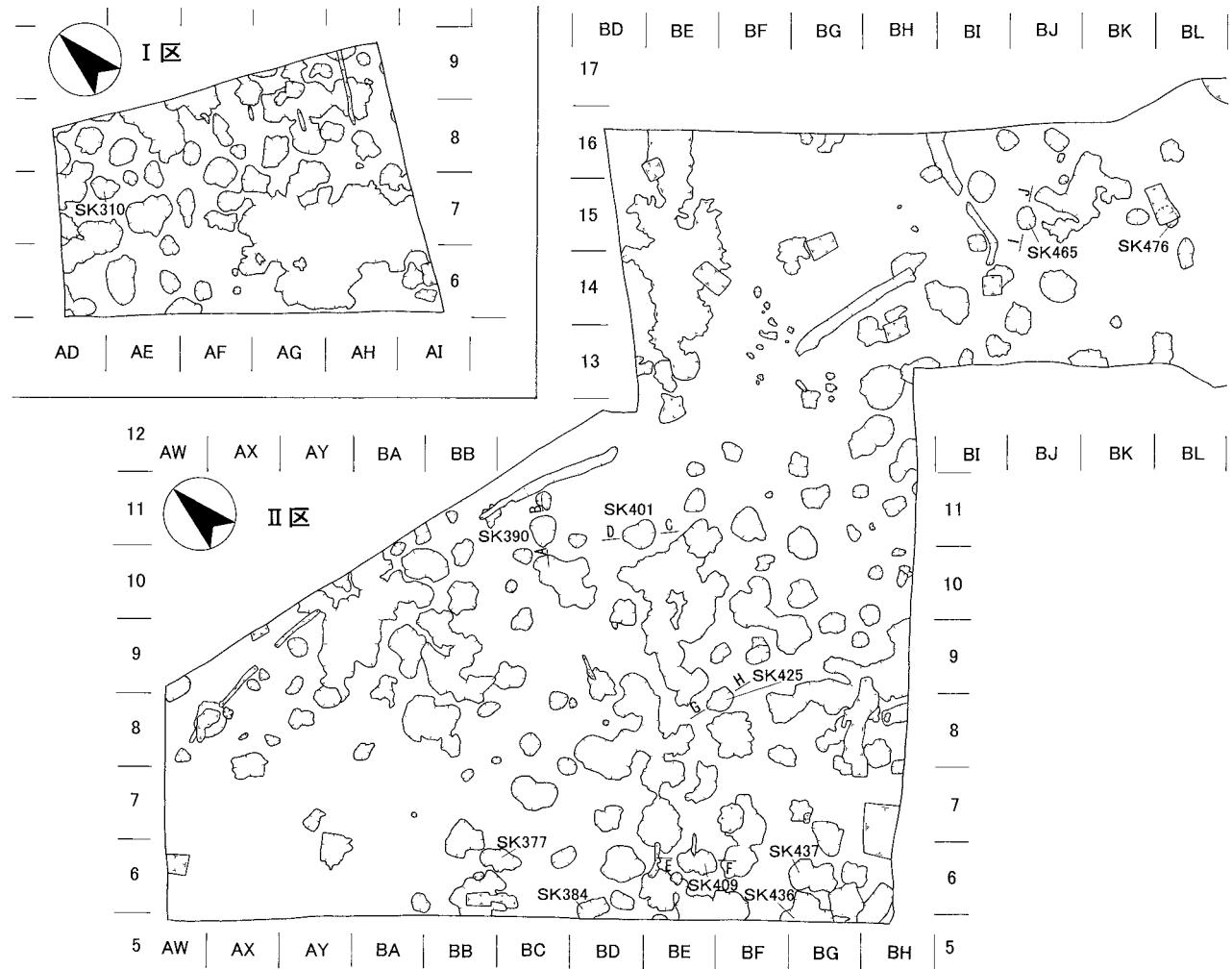
- 第I層：暗褐色土（表土）
- 第II層：黒褐色土（黄灰色～暗黄灰色粘質土）
- 第III層：黒褐色～褐灰色粘質土（にぶい黄褐色土）
- 第IV層：黄灰色粘土
- 第V層：黒色～褐灰色粘土
- 第VI層：黒褐色粘土
- 第VII層：褐灰色粘土（遺構検出面）
- 第VIII層：明オリーブ灰色土～緑灰色シルト
- 第IX層：黒色粘土

以上のうち、第IV層は第3次調査区内においては東に向かうにつれて薄くなり、やがて無くなる等安定しない。遺構は、第VI層上面から掘削されているが、第VI層と遺構埋土は類似しているため、検出は第2次調査と同様に第VII層上面で行った。なお、第VII層の直上に砂礫層があることから堆積が一時中断したと判断でき、第VII層上面は一定期間安定していたと考えられる（註4）。

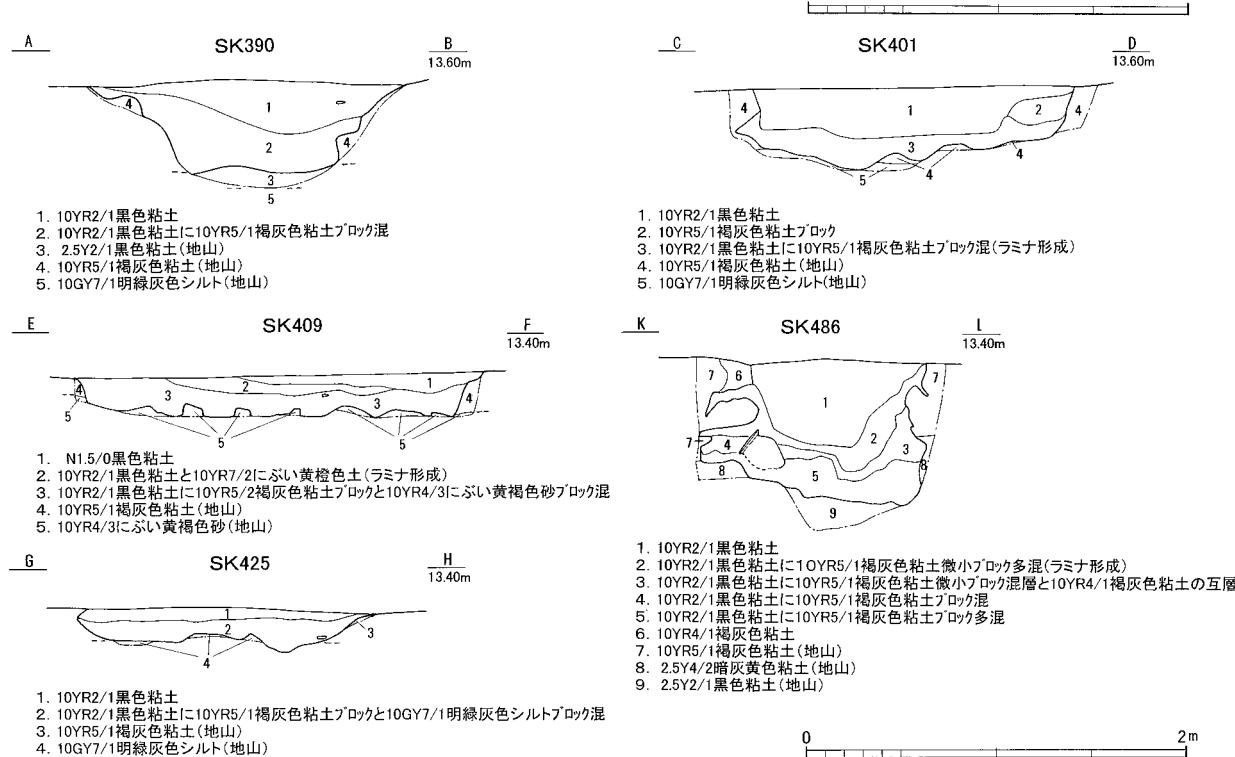
検出面より下層の第VIII層は、遺構掘削時に部分的に確認されているが、調査区壁面の土層観察では認められなかった。下層確認のためのトレーンチでも部分的に確認されたことから、第VIII層は限定的な広がりにとどまると考えられる。



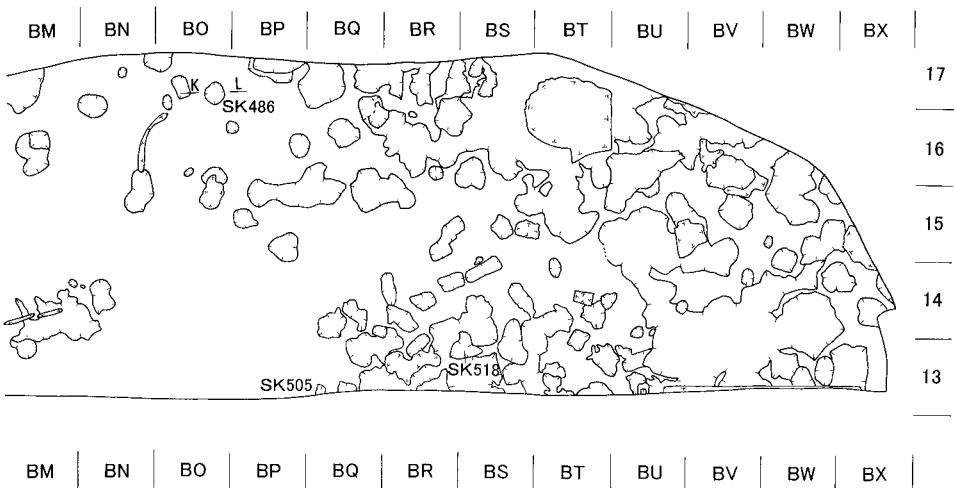
第3図 相川西方遺跡(第3次)調査区位置図 (1:2,000)



第4図 相川西方遺跡（第3次）調査遺構平面図（1：400）



第5図 SK390・401・409・425・486土層断面図（1：40）



BM | BN | BO | BP | BQ | BR | BS | BT | BU | BV | BW | BX |



写真1 SK384遺物出土状況（北から）



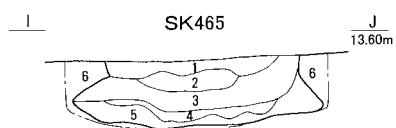
写真3 SK409遺物出土状況（西から）



写真2 SK401（東から）



写真4 SK465（南東から）



1. 10YR2/1黒色粘土
2. N1.5/0黒色粘土
3. 7.5Y2/1黒色粘土
4. 10YR2/1黒色粘土に10YR5/1褐灰色粘土ブロック混(ラミナ形成)
5. 10YR2/1黒色粘土に10YR5/1褐灰色粘土ブロック多混
6. 10YR5/1褐灰色粘土(地山)

第6図 SK465土層断面図（1:40）



写真5 SK505遺物出土状況（北から）

【遺構】

II 区の一部を除き、I 区、II 区において多数の土坑を確認した。確認された土坑は約250基にのぼる（第4図）。出土した遺物から弥生時代後期から古墳時代初頭及び奈良時代の遺構とみられる。しかし、奈良時代の遺物が確認されたのは、II 区の調査区端部の数基に限られ、主体は弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構とみられる。

平面形は楕円形や不整形などであり、規模は、長径約0.5～10m、深さは0.1～0.8m程である。以下、個々の土坑について概略を記す。なお、遺跡名の次のカッコ付きの記号は検出したグリッドを示す。

SK310 (AD・AE7) 長径1.4m、深さ約0.15mの不整形の土坑である。遺構埋土は、黒色粘土に褐灰色粘土ブロックが混じる。土坑底部より正位で台付甕脚部が出土した。

SK377 (BB・BC6) 長径約2.4m、深さ約0.3mの不整形の土坑である。埋土は、上層が黒色粘土層、下層が黒色粘土に褐灰色粘土ブロックが混じる層である。土坑底部より約0.2m浮いたところで高杯の杯部、脚部（16）が出土した。

SK384 (BD5・6) 長辺1.8m、短辺1.0m、深さ約0.2mの方形に近い土坑である。埋土は、主に黒色粘土層であるが、最下層に薄く、褐灰色粘土に明緑灰色シルトブロック及び細かい黒色粒子が混じる層がある。また、一部にラミナが見られる。写真1のように土坑底部より、伏せた状態で高杯の杯部（12）が出土した。

SK390 (BC11) 長径約1.7m、深さ約0.45mの不整形の土坑である。埋土は上層が黒色粘土層、下層は黒色粘土に褐灰色粘土ブロックが混じる層である（第5図）。黒色粘土層より甕の体部片が出土した。

SK401 (BD10・11、BE10・11) 長径約1.8m、深さ0.3～0.4m程の不整形の土坑である。壁面は、一部オーバーハングしており、中央に浅い窪みがある。埋土は上層が黒色粘土層、下層が黒色粘土に褐灰色粘土ブロックが混じる層（ラミナが見られる）であり、一部、崩落によるものか、厚さ0.1m、長さ0.3m程の褐灰色粘土ブロックが見られた（第5図）。下層より台付甕が出土した（写真2）。

SK409 (BE6) 長径約2.1m、短径約1.6m、深さ約0.2mの楕円形の土坑である。埋土は上層が黒色粘土層、下層が黒色粘土に褐灰色粘土ブロック及びにぶい黄褐色砂ブロックが混じる層であり、上層と下層の間には、ラミナが見られる（第5図）。土坑底部及び下層から弥生時代後期の甕の口縁部片（写真3）が出土している。

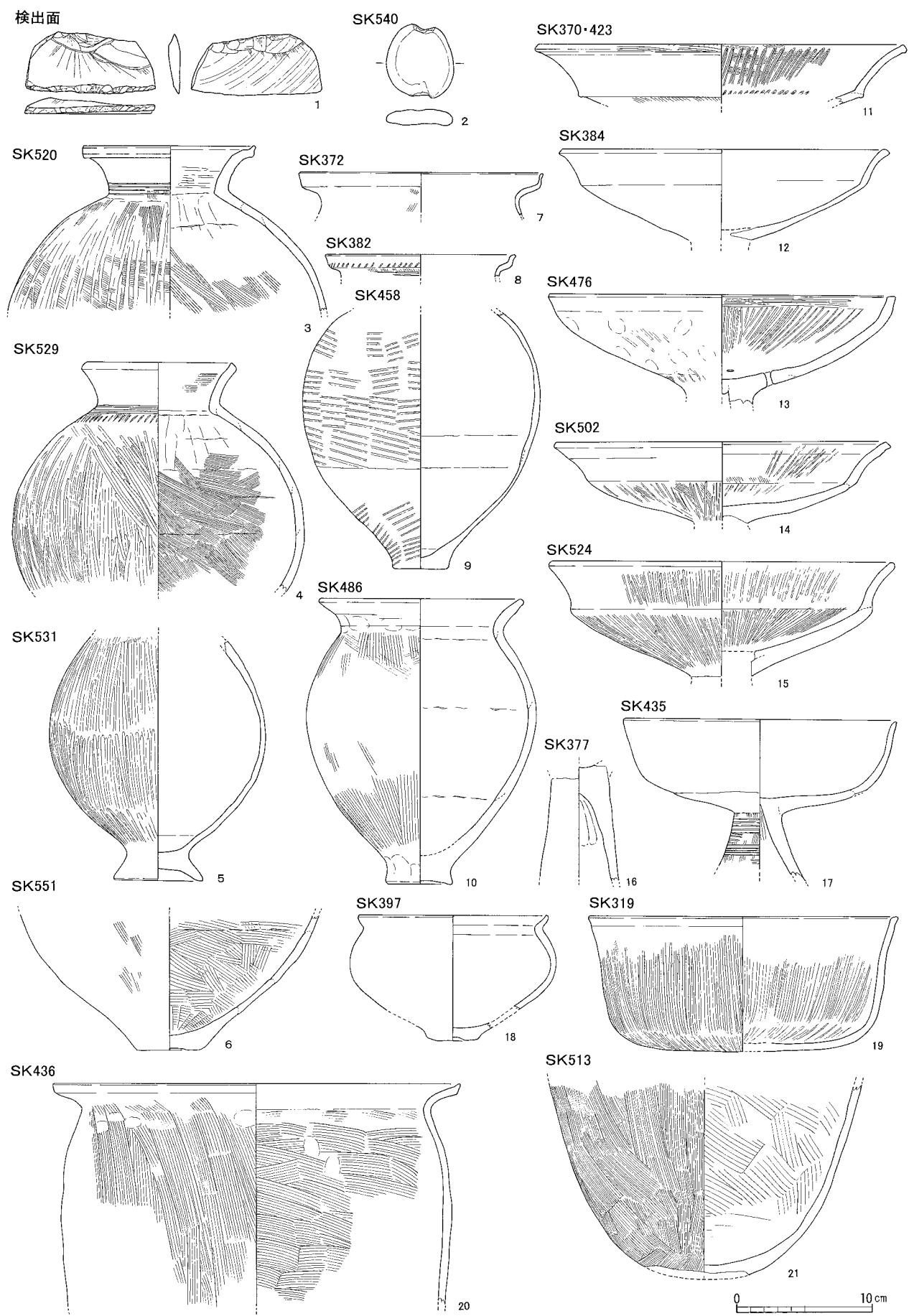
SK425 (BE8・9、BF8・9) 長径約1.6m、深さ約0.2mの不整形の土坑である。壁面は、一部オーバーハングしている。埋土は、上層が黒色粘土層、下層が黒色粘土に褐灰色粘土ブロック及び明緑灰色シルトブロックが混じる層である（第5図）。下層から土師器片が出土した。

SK465 (BJ15) 長径約1.4m、短径約1.3m、深さ約0.45mの楕円形の土坑である。壁面は、全体的にオーバーハングしている。埋土は、上層が黒色粘土層、下層が黒色粘土層に褐灰色粘土ブロックが混じる層であり、一部ラミナが見られる（第6図、写真4）。下層の下部には、褐灰色粘土ブロックが多く見られた。

SK476 (BL15) 北側の上部が搅乱により削平されているが、確認された範囲で長径1.6m、深さ約0.4mの不整形の土坑である。壁面は、一部オーバーハングしている。埋土は、上層が黒色粘土層、下層が黒色粘土に褐灰色粘土ブロックが混じる層である。上層には、ラミナが見られる。土坑のほぼ底部より高杯の杯部（13）が出土した。

SK486 (BO17) 長径約1.3m、短径約1.2m、深さ0.7～0.8m程の楕円形の土坑である。壁面は、全体的にオーバーハングしている。埋土は、上層が黒色粘土層、下層が黒色粘土層に褐灰色粘土ブロックが多く混じる層である。上層と下層の間には黒色粘土に褐灰色粘土微小ブロックが混じる層が見られ、ラミナが形成される部分がある（第5図）。また土層断面の状況からオーバーハングして掘削された部分の壁面上部が一部崩落したことが推察される。土坑底部より0.1m浮いたところで甕（10）が出土した。

SK505 (BQ13) 長径約0.5m、深さ約0.2mの不整形の土坑である。上述のSK486より埋土はやや茶色味を帯びる。上層が黒褐色粘土、下層が褐灰色粘土である。奈良時代とみられる甕の体部片が



第7図 相川西方遺跡（第3次）出土遺物実測図（1:4）

土坑に詰まった状態で出土した（写真5）。

【出土遺物】

今回の調査で出土した遺物は、コンテナパット18箱分である。時代は主に弥生時代後期から古墳時代初頭のものと、奈良時代のものに分けられる。縄文時代の石器も、数点出土している。

土器は全体的に風化が激しく調整は不明瞭である。

縄文時代

1は削器である。縄文時代草創期のもので、石材はサヌカイトである。2は打欠き石錐である。SK540へのまぎれ込みと考えられる。

弥生時代～古墳時代

3～6は壺である。3は頸部に直線文があり、口縁端部がわずかに外側へつまみ上げられている。5は台付壺である。胴部上端は擬口縁で、頸部から口縁部の形状は不明である。

7～10は甕である。7は台付甕の口縁部で、受け口状に屈曲している。8はS字状口縁台付甕の口縁部で、口縁下には刺突文が施されている。2点とも外面にススが付着している。9は体部外面にタタキ痕があり、ススが付着している。10は弥生時代中期の甕である。

11～17は高杯である。13は杯部の底部に4ヶ所の焼成前穿孔があるが、それらの機能は不明である。口縁端部はほぼ水平になっている。内外面にベンガラが付着している。今回出土した高杯の大部分は山中式であるが、17は廻間式と考えられる。脚部に櫛描直線文が入り、外面にはススが付着している。

18・19は鉢である。19は内外面に細いミガキ調整が施され、外面底部は剥離しているようである。

奈良時代

20は土師器長胴甕の口縁部から体部である。内外面にハケメが残る。21は長胴甕の底部である。内面底部には板状工具によると思われるナデが施され、外面は底部が剥離している。

今回の調査で出土した土器のうち、壺・甕はおよそ半分に割れた体部が多く、高杯もほとんどが杯部のみで、脚部の出土は1点だけである。これらのことから、偶然このような残り方をしたとは考えにくく、意図的に割られた可能性がある。それはこれらの土器が、採掘した粘土を運ぶための容器として利

用されたとも考えられるからである。その類例については、調査中である。

3まとめ

第2次調査に引き続き、多数の土坑が確認された。第2次調査で確認された土坑と合わせると500基にのぼる。

今回の調査で確認された土坑は、上述のように、形状、規模、深さは様々である。しかし、土坑がどの層まで掘られているかということに注目すると、第5図、第6図のように、ほとんどの土坑が褐色粘土層まで掘られているか、褐色粘土層を掘り抜き、その下層に及ぶものも下層を深く掘り込むことがないという点で共通している。また、遺構埋土に注目すると、埋土に褐色粘土は含まれるもの少量である。これは、埋め戻し時に使われていないことを示唆するものである。さらに、II区の西部（AW～BA5・6・7グリッド）、北西部（BD～BG13・14・15・16グリッド）は、他の地点に比べ土坑が少ないが、この辺りには、褐色粘土層がなくシルトとなる。これらの特徴は、第2次調査で確認された土坑にも共通することである（註5）。

以上のことから、今回確認された土坑の多くは、第2次調査と同様、褐色粘土の採取を目的として掘られたことが窺え、粘土採掘坑の可能性が高いと考えられる。更に今回は、土坑の分布の広がりが確認された。また、調査区（II区）の端部で数基ではあるが奈良時代と見られる遺構（SK436・437・505・518）が確認された。これらの土坑がどのような目的で掘られたかは、今後更に検討が必要であるが、第2次調査では確認されなかった時期の遺構が見つかったことで、遺構ごとの時期や性格について個々に見極める必要がある。

〔註〕

- 1 『久居古窯址群発掘調査報告』（久居古窯址群発掘調査団、1968）。
- 2 「藤谷窯跡群発掘調査報告」（『津市埋蔵文化財センターレポート4』津市埋蔵文化財センター、2000）。
- 3 『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報22』（三重県埋蔵文化財センター、2010）。
- 4 津村善博氏（三重県立博物館）のご教示による。
- 5 3に同じ。

III 鳥羽見城跡・上はんの木古墳（第1次）

1 はじめに

鳥羽見城跡は津市神戸の山中に位置し、山腹にあるテラス状の地形や地元の言い伝えにより中世城館跡と考えられている。また、この城館跡の範囲内にある円形の高まりが上はんの木古墳とされていた。

当遺跡の周辺には大釜南古墳や鳥羽見古墳などが点在している。

2 調査の概要・結果

今回実施された第1次調査では、幅2mのトレンチ状の調査区を9ヶ所設定（A～I区）し、合計600m²にわたる範囲を調査した（第8図）。

調査の結果、調査区のほぼ全面において0.1～0.3mほどの表土の直下に明瞭な明黄褐色砂質土の地山が確認された。全ての調査区において遺構・遺物はなく、古墳が想定されたF・G区頂上付近でも盛土や周溝などは確認されなかった。テラス状の地形や円形の高まりは自然地形と考えられる。



写真6 F区（西から）



写真7 F区頂上付近（南東から）



第8図 鳥羽見城跡・上はんの木古墳調査区位置図 (1:2,000)

IV 相川西方遺跡（第1次）

1 はじめに

今回の第1次調査は、相川西方遺跡第3次調査に先立って、その調査範囲を確定するために行ったものである。

2 調査の概要・結果

幅2mのトレンチ状の調査区を17ヶ所（1～17区）設定し、合計940m²の調査を行った（第9図）。

調査の結果、北東側段丘部分の1～7区では、表土下0.3～0.4mで地山に達し、部分的に表土下0.3～0.4mで現代の盛土が約0.4m堆積、その直下が地山であった。この段丘部分からは、遺構・遺物は確認されなかった。

段丘下の基本的な層序は、前述の第3次調査と同様である。北西側の浅い谷部分にあたる8～17区は、最近まで水田として利用されており、水はけが非常に悪く、また北側の山林からは水が流れ込み、常時水につかっている状態であった。

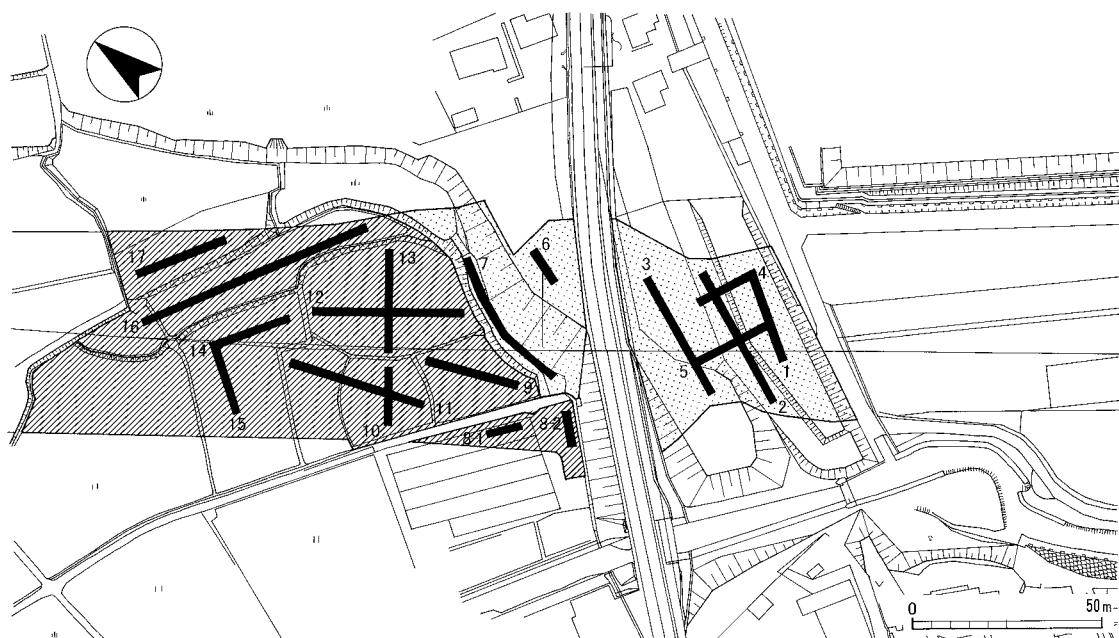
8～15区では、表土下0.4～1.0mで、16・17区では0.9～1.4mで粘土層の地山に達し、全ての調査区において土坑や溝などの遺構を確認した。また、複数の調査区から、甕・壺などの弥生土器、須恵器、山茶碗などが出土地した。その結果、8～17区の範囲を本調査の対象範囲とした。



写真8 4区（西から）



写真9 14区（東から）



第9図 相川西方遺跡（第1次）調査区位置図（1：2,000）

V 城ノ越遺跡（第1次）

1 はじめに

当遺跡は津市久居小野辺町地内、相川の南側にある丘陵上に位置する。分布調査において室町時代以降の土師器鍋等の遺物の散布が確認され、中世城館跡と考えられている。遺跡の周囲にある水田は堀跡と推測されているが、一部はすでに埋め立てられている。

2 調査の概要・結果

平成21年度の調査（A～D区）に引き続き、今回は幅2mのトレンチ状の調査区を13ヶ所設定（E～Q区）し、合計1,070m²にわたる調査を行った（第10図）。

調査の結果、丘陵上の調査区においては表土直下に褐色土または黄褐色土の地山が確認できた。しかし南側の旧水田部分には近年に盛土がなされ、表土から地山まで2～4mにおよぶ部分もあった。このような部分に関しては、安全上の問題からトレーニチの一部を深掘りして地山や遺構を確認する方法で調査した。

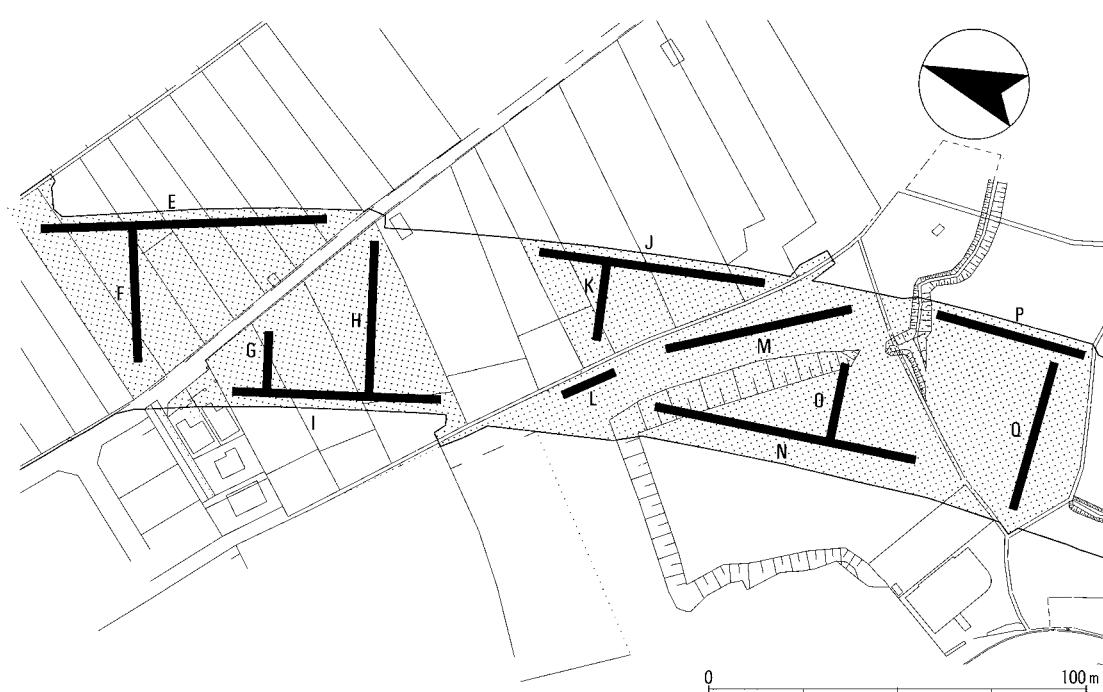
前回の調査と同様に、今回の調査区からも遺構・遺物は確認できなかった。



写真10 J区（北から）



写真11 P区（北から）



第10図 城ノ越遺跡調査区位置図 (1:2,000)

VI 東山神遺跡（第1次）

1 はじめに

当遺跡は相川の南側にある丘陵上の津市久居小野辺町と久居野村町地内に位置し、分布調査において中世から江戸時代の遺物の散布が確認されている。当遺跡の北側には城ノ越遺跡が隣接しており、南側には低地を挟んで本宮遺跡がある。

2 調査の概要・結果

今回実施された第1次調査では、幅2mのトレーニング状の調査区を16ヶ所設定（A～P区）し、合計1,030m²にわたる調査を行った（第11図）。

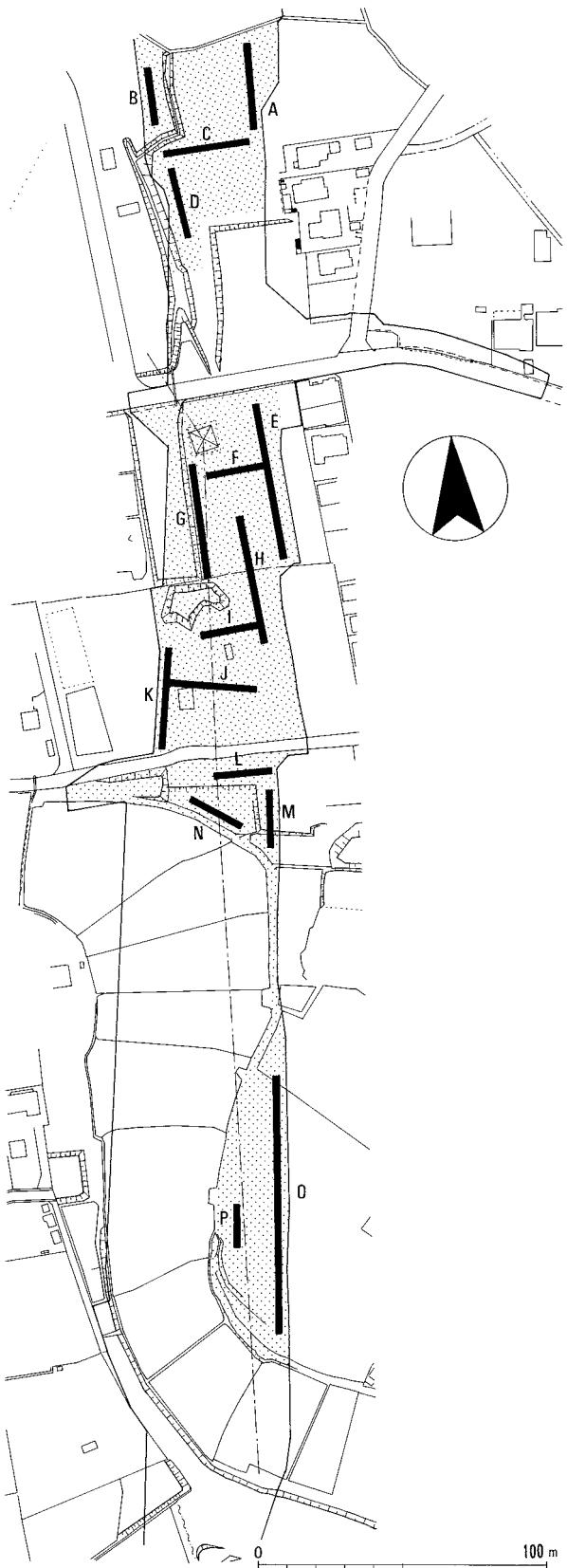
調査の結果、表土直下に褐色土または黄橙色土の地山が確認できたが、いずれの調査区においても、遺構・遺物は確認できなかった。



写真12 H区（南から）



写真13 O区（南から）



第11図 東山神遺跡調査区位置図 (1:2,500)

VII 本宮遺跡（第1次）

1 はじめに

当遺跡は津市久居野村町地内、相川の南側にある丘陵の辺縁部に位置しており、最近まで主に畑地及び果樹園として利用されていた。分布調査では縄文土器、弥生土器、山茶碗が採取されており、縄文時代から弥生時代を中心とした遺跡と考えられている。

当遺跡では昭和48年に国道165号線改良工事に伴う試掘調査、平成21年に当事業に伴う第1次調査が行われている。出土遺物は昭和48年の調査において少量の土師器壺や高杯、石鏃がみられるが、いずれの調査においても遺構は確認されていない。

2 調査の概要・結果

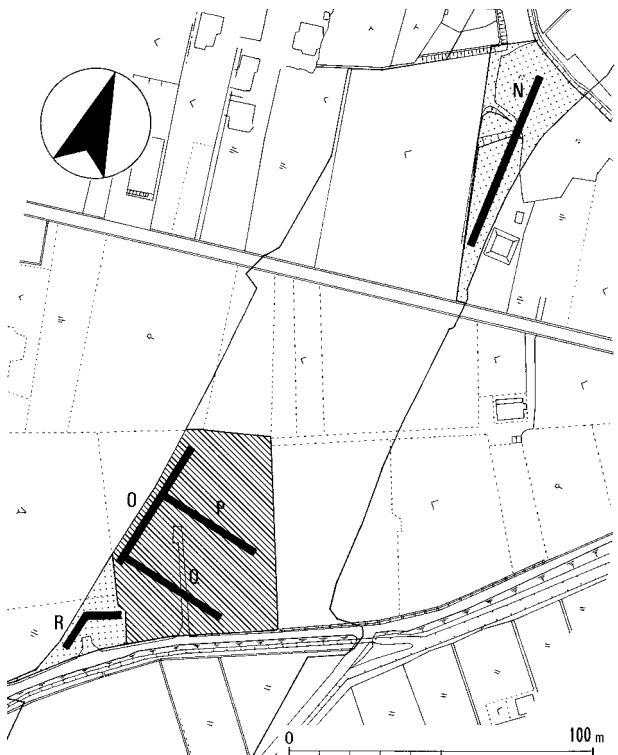
平成21年度の調査（A～M区）に引き続き、今回は幅2mのトレンチ状の調査区を5ヶ所設定（N～R区）し、合計400m²にわたる第1次調査を実施した（第12図）。

調査の結果、厚さ0.2mほどの表土直下に褐色粘質土の地山が確認されるが、丘陵南端付近では表土と地山の間に黒色土および黒色粘質土がみられた。O～Q区でいくつかの遺構が確認されたが、特にP区では竪穴住居跡や土坑が検出され、弥生時代終末期から古墳時代初頭の土師器高杯と土師器壺が出土した。このO～Q区は当遺跡の中央付近から丘陵南端へ次第に下りの傾斜がきつくなる部分にあたる。なお最南端のR区および調査区北側のN区においては遺構・遺物共に確認されなかった。

以上のような結果から、O～Q区にかけての約2,850m²について本調査が必要と判断した。



写真14 出土遺物



第12図 本宮遺跡調査区位置図 (1:2,500)



写真15 P区竪穴住居跡 (北から)



写真16 P区 (東から)

報告書抄録

ふりがな	いっぽんこくどうにじゅうさんごうちゅうせいどうろまいぞうぶんかざいはつくつちょうさがいほうにじゅうさん									
書名	一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報23									
副書名										
卷次										
シリーズ名	一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報									
シリーズ番号	23									
編著者名	松葉和也 深尾太 西口剛司 星野浩行 水橋公恵									
編集機関	三重県埋蔵文化財センター									
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732									
発行年月日	2011(平成23)年7月									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 °・'"	東経 °・'"	調査期間	調査面積 m ²	調査原因			
あいかわせいほういせき 相川西方遺跡	みえけんつしひさいあいかわちょう 三重県津市久居相川町	201 b 180	34° 41' 21"	136° 29' 14"	2010.7.29～ 2011.1.31	第3次調査 3,000	一般国道23号 中勢道路建設			
"	みえけんつしひさいあいかわちょう つしたるみ 三重県津市久居相川町 津市垂水	" "	"	"	2010.4.30～ 2010.6.28	第1次調査 940	一般国道23号 中勢道路建設			
とりばみじょうあと 鳥羽見城跡	みえけんつしかんべ 三重県津市神戸	201 a789	34° 41' 57"	136° 28' 37"	2010.8.30～ 2010.10.13	第1次調査 410	一般国道23号 中勢道路建設			
かみはんのきふん 上はんの木古墳	みえけんつしかんべ 三重県津市神戸	201 a788	34° 41' 57"	136° 28' 37"	2010.8.30～ 2010.10.13	第1次調査 190	一般国道23号 中勢道路建設			
しろのこしいせき 城ノ越遺跡	みえけんつしひさいこのんべちょう 三重県津市久居小野辺町	201 b191	34° 40' 58"	136° 29' 39"	2010.9.24～ 2010.12.13	第1次調査 1,070	一般国道23号 中勢道路建設			
ひがしやまがみいせき 東山神遺跡	みえけんつしひさいこのんべちょう つしひさいのむらちょう 三重県津市久居小野辺町 津市久居野村町	201 b192	34° 40' 45"	136° 29' 40"	2010.9.24～ 2010.12.13	第1次調査 1,030	一般国道23号 中勢道路建設			
ほんぐういせき 本宮遺跡	みえけんつしひさいのむらちょう 三重県津市久居野村町	201 b 202	34° 40' 27"	136° 29' 38"	2010.7.29～ 2010.9.15	第1次調査 400	一般国道23号 中勢道路建設			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項			
相川西方遺跡	遺物散布地	弥生時代 古墳時代 奈良時代	土坑、溝	弥生土器・土師器・石器			粘土採掘坑			
鳥羽見城跡	城館跡	中世	なし	なし						
上はんの木古墳	古墳	古墳時代	なし	なし						
城ノ越遺跡	遺物散布地	室町時代 以降	なし	なし						
東山神遺跡	遺物散布地	中世～近世	なし	なし						
本宮遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代	竪穴住居、ピット	土師器						
要約	相川西方遺跡	津市久居相川町地内の相川北側の段丘及び浅い谷部分に位置する。第1次調査の結果、段丘部分では遺物包含層・遺構・遺物は確認されなかったが、浅い谷部分では、土坑・溝などの遺構と土師器・須恵器などが確認された。その結果と昨年度の第2次調査をもとに第3次調査を行った結果、弥生時代末期～古墳時代初頭の土坑が約250基確認された。土坑は不整形のものが多く、粘土がとれる場所に集中することなどから粘土採掘坑と考えられる。遺物は、弥生土器を中心に、奈良時代の土師器、縄文時代の石器などが出土した。								
	鳥羽見城跡	津市神戸地内の山稜部に位置する。第1次調査の結果、表土直下に地山が認められ、どの調査区からも遺物包含層・遺構・遺物は確認されなかった。								
	上はんの木古墳	津市神戸地内の山稜部に位置する。第1次調査の結果、表土直下に地山が認められ、どの調査区からも遺物包含層・遺構・遺物は確認されなかった。丘陵頂部の上はんの木古墳としていた墳丘状の高まりは、自然地形で、古墳でないことが判明した。								
	城ノ越遺跡	津市久居小野辺町地内の相川南側の台地上及び谷部分に位置する。第1次調査の結果、台地上では表土直下に地山が認められた。谷部分では近年の盛土が認められ、深掘部分では盛土下の旧表土直下に地山が認められた。どの調査区からも遺物包含層・遺構・遺物は確認されなかった。								
	東山神遺跡	津市久居小野辺町・久居野村町地内の相川南側の台地上に位置する。第1次調査の結果、表土直下に地山が認められた。一部の調査区では谷地形を埋めた近年の盛土が認められ、深掘部分では盛土下の旧表土直下に地山が認められた。どの調査区からも遺物包含層・遺構・遺物は確認されなかった。								
	本宮遺跡	津市久居野村町地内の相川南側の丘陵縁辺部に位置する。第1次調査の結果、基本的には表土直下は地山であるが、場所によっては表土下に黒色土層が確認された。また、一部の調査区では竪穴住居跡・ピットが確認され、土師器が出土した。								

一般国道23号 中勢道路
埋蔵文化財発掘調査概報23

2011（平成23）年 7月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 光出版印刷株式会社



表紙写真：相川西方遺跡第3次調査（北西から）